



碧南ロータリークラブ週報

第3037回例会 令和4年12月14日(水)

- 会長 長田 和徳
- 幹事 清澤 聡之
- 会場監督(SAA) 縦山 朋久

2022-2023 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



- 会報委員 鈴木 洋・長田一希・杉浦保子

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

碧南市教育部文化財課 市史資料調査室 調査員 北村 恒様

会 長 挨 拶

皆さん、こんにちは。

来週は家族会がありますので、水曜日の例会は休会となります。その為、本日が碧南商工会議所で行う今年最後の例会となります。

めっきり寒くなってきましたが、今日は12月14日ということで、何の日かご存知の方は見えますか？ロータリーの先輩方はお馴染みの「殿中のござる」で有名な忠臣蔵で、大石内蔵助率いる赤穂浪士が両国の吉良邸に討ち入りを果たした日でございます。

私事ではありますが、10年程前から講談にはまっておりまして、つい先日も新宿末廣亭にて神田伯山の忠臣蔵を聞いてきたばかりであります。この歳になって、やっと忠臣蔵の面白さがわかってきて、泉岳寺にも2度ほどお線香をあげてまいりました。

落語・講談・浪曲は「日本三大話芸」と言われております。江戸末期から明治時代にかけて、講釈は全盛期を迎え、明治時代以降、講釈は「講談」と呼ばれるようになったそうです。また、女性の進出が目覚ましい分野でありまして、近年の若手講談師はむしろ女流が中心となっています。特に若手の入門者は女性が圧倒的に多く、講談協会では1988年から2012年まで、男性真打が1人も誕生しなかった程であります。3代目神田松鯉が講談師2人目の「人間国宝」となりまして、さらに弟子である6代目神田伯山の登場により、男性の入門希望者も散見されるなど、講談の人気も徐々に取り戻しつつあります。私も5年程前から神田伯山の



長田和徳会長

講談にはまりまして、せっせと毎年通っております。

最近は浪曲にもはまっておりまして、来年こそは浪曲師の玉川太福さんがブレイクするのではないかと密かに応援しております。彼の浪曲の得意は「男はつらいよ」の寅さんシリーズの映画を全編浪曲でやるのですが、これが絶品でして、機会があれば是非お聞きいただければと思います。

これで今年最後の碧南商工会議所での挨拶とさせていただきます。来年度もよろしくお願ひ致します。

幹 事 報 告

幹事報告を申し上げます。

- ・ 第6回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 知立RCより例会変更のお知らせが届いております。
- ・ ガバナー事務所より「愛知県県政150周年記念感謝状拝受のお知らせ」が届いております。
- ・ ガバナー事務所より「2022年10月版のロータリー章典について」のご案内が届いております。
- ・ ガバナー事務所より「メルボルン国際大会 登録料割引期限内のご登録のお願い」が届いております。
- ・ 12月21日（水）は24日（土）の振替休会になりまして、24日（土）は年忘れ家族会になります。場所はホテルグランドティアラ南名古屋になります。バスに乗車の方は16時に碧南商工会議所を出発致しますので、よろしくお願ひ致します。
- ・ 12月28日（水）、1月4日（水）は定款第7条第1節（d）による休会になります。
- ・ 年明けの最初の例会は1月11日（水）で、新年例会になります。新年例会の後に理事会がございますので、理事、役員の方はご出席をお願ひ致します。



清澤聡之幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 60 名（内出席免除者 15 名の内出席者 11 名）出席者 48 名	
出席対象者 48/56 名	出席率 85.71%
欠席者 12 名（病欠者 1 名）	

<ニコボックス>

角谷 信二君 次年度役員・理事の皆様、よろしくお願ひします。

鈴木 並生君 12月末日をもって退会させていただきます。35年という長い間、大変

お世話になりました。多くの方の友情に感謝です。ありがとうございました。

木村 徳雄君 ごぶさたしてました。12月3日、4日と志賀高原熊の湯スキー場初すべりしてきました。今週は開田高原、来年3月までゴルフよりスキー中心の酒のみ会をしていく予定です。健康に注意してあそんでます。

伊藤 正幸君 北村先生、ようこそお越しくださいました。ご来訪心より歓迎申し上げます。

大竹 密貴君 先週は還暦のお祝い、どうもありがとうございました。

長田 康弘君 本日の卓話講師、北村 恒様をご紹介します。

卓 話

「学制150周年 碧南の教育の歩み ～明治初期編～」
碧南市教育部文化財課 市史資料調査室 調査員 北村 恒様



北村 恒様

ご紹介いただきました北村でございます。本日は碧南 RC 様の例会にお招きいただきまして、ありがとうございます。

愛知県が今年の11月で150周年ということですが、その3ヶ月前の8月に実は文部省が新しい教育制度ということで「学制」というものを発表しまして、近來、教育制度が始まって150周年を迎えております。

碧南市で毎年やっております「市史資料収蔵品展」というものがありまして、碧南市が持っている色々な資料を皆さんにお知らせするものなんです、その担当を偶々私がやるものですから、今回はお話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

碧南は教育の先進地ということで、勝手に名乗っているようですが、実はここ3年の間に新川小学校、大浜小学校、棚尾小学校、日進小学校、鷺塚小学校、西端小学校が150周年を迎えております。こんなにも多くの小学校が明治5年前後に開校しているのは他の地区にはありません。

何故、こんなに早く小学校を開校できたのかということですが、江戸末期の碧南の領主は西端地区を除く碧南市域は水野家、沼津藩領でした。(明治になると領地替えて菊間藩となる。)西端地区は本田家、西端藩領でした。菊間藩は明治2年に新しい社会の中で、自分の領地の人々の教育が必要であるということで、郷校「日新館」というのを大浜陣屋内に作りました。そして、明治4年に日新館に替わり、西方寺に新民序、各村に新民塾を開きました。こういったものを学制の前にスタートしておりました。

その後、学制を受けて、新民序、新民塾は明治5年に郷学校となります。日本全国では学制を受けても、小学校の敷地建物の選定、教師の確保等の準備期間が必要で、開校は明治6年になるところが多かったですが、菊間藩領は新民序、新民塾があった為、名称を郷学校と変更して、早々に小学校の開校ができました。

明治初期の学校は今の学校とは全く違っていて、今回調べていく中でわかったことを簡単

にご説明したいと思います。まず凄いのは、教育予算は村費、授業料、献金等の民費で賄っていたということで、村の経済力によって準備の仕方が違うので、大変だったと思います。

入学日がばらばらだったというのもわかりました。また、学年は存在しませんでした。学習のまとまりは半年単位の「級」というもので、下等小学は半年の級が8段階に分かれて、8級から始まって、半年に一度の試験に合格すると「卒業」となりまして、次の級に進級できるという形でした。上等小学も同じく半年ごとの8段階に分かれて、下等小学4年と上等小学4年の計8年を就学期間としましたが、誰もが就学できた訳ではなくて、就学しても途中で退学する人も多かったようです。

明治8年12月調べの西端学校の卒業学生名簿がありまして、これは開校から3年が経っております。半年ごとの級の試験に順調に合格できていれば、3級に合格しているはずなんです。これを見ると、3級合格者は1名のみで、4級合格者は0名、5級合格者は5名、6級合格者は17名、8級合格者は20名ということで、級の試験に合格するのは難しかったということがわかりました。

学制期当初は、授業は1年中あった訳ではないということもわかりました。西端学校の明治11年の生徒出席統計表の一番授業に出た子の数字を拾っていくと、1月と2月は20日、3月は25日、4月は16日、5月は27日、6月は25日、7月は23日、8月から11月は0日、12月は25日でした。学制期においては資料がありませんので、どれくらいの授業日数が必要だったかは不明です。明治12年の教育令においては、4ヶ月以上授業をすれば良いというふうになりましたが、流石に緩めすぎたので、明治13年の改正教育令においては、年間授業数が32週以上になりまして、これにより1年を通じた授業が行われるようになりました。

ということで、学制150周年を全部話すと5時間ぐらい掛かるもんですから、明治の部分だけ話させていただきました。

本当に今日はありがとうございました。

次回例会案内

令和5年1月18日(水) 12:30～ 会場：碧南商工会議所
職場例会 (株)JERA碧南火力発電所 所長 谷川勝哉氏